

# メディア社会論

辻 泉 = 南田勝也 = 土橋臣吾 編

2018年8月発売 / 236頁 / 本体 1800円 + 税  
A5判 / 並製



編集  
担当者  
から

スマホやSNSなど、メディアは私たちにとって、「いつでも、どこにでも」、あたりまえに身近に存在するものであるとともに、ビッグデータやポスト・トゥルースなどの言葉をニュースで目にするように、社会のあり方と密接に関わるものでもあります。「スマホ依存」や「炎上」「SNS疲れ」など、負の側面が注目されることもあるものの、メディアが私たちの生活を飛躍的に便利にし、これからの社会をよりよくする可能性をもっていることも間違いのないでしょう。メディアは社会をどのように変えてきたのか、私たちはメディアとどのように向き合うべきなのか。「流動化」「個人化」「再帰化」という3つの大きなキーワードを通して、「メディアと社会」の関係について、1から読み解いていく入門書です。(H)

## Index



メディアの過去、現在、未来を3つのキーワードとともに読み解いていく3部構成。

### 第1章 メディア社会論のために

#### 第I部 メディアの来歴：流動化

第2章 ネットワーク化の来歴——メディアがつないできたもの

第3章 モバイル・デバイスの来歴——場所感覚の喪失と創出

第4章 コンテンツ・メディアの来歴——ソリッドなスター／リキッドなアイドル

#### 第II部 メディアの功罪：個人化

第5章 ソーシャル・メディアの功罪——SNS的つながりの実相

第6章 デジタル・コンテンツの功罪——データ化した音楽作品とその価値

第7章 ネット広告の功罪——監視社会と消費行動への自由

第8章 ユビキタス／ビッグデータの功罪——「わたし」という閉域、「みんな」の可視化

#### 第III部 メディア社会の構想：再帰化

第9章 変わりゆくリアリティ——二項対立から多項対立の時代へ

第10章 変わりゆくコンテンツ——鑑賞からプレイへ

第11章 変わりゆくテクノロジー——分断された「わたし」からモバイルな社会性へ